

平成 30 年3月期 第1四半期決算について

ANAホールディングスは、8月2日(水)、平成30年3月期 第1四半期決算を取りまとめました。詳細は「平成30年3月期 第1四半期決算短信」をご参照ください。

1. 平成30年3月期 第1四半期の連結経営成績・連結財政状態

(1)概況

- 当第1四半期のわが国経済は、企業収益及び雇用環境の改善が続く中、個人消費は緩やかに持ち直しの動きが続く等、景気は緩やかな回復基調が続きました。
- このような経済情勢の下、旺盛な需要に支えられ、国際線旅客、国際線貨物が好調に推移したことや、当期から連結子会社となった Peach・Aviation(株)の収入が加わったこと等により、航空事業の売上高は前年同期を上回りました。
- 英国スカイトラックス社による2017年ワールド・エアライン・アワードにて、昨年に引き続き、「空港サービス全般」と「アジアを拠点とする航空会社の空港スタッフと客室乗務員によるお客様へのサービス品質」の2部門で、最も優秀なエアラインに選ばれました。

これらの結果、航空事業を中心に増収となったことから、売上高は4,517億円、営業利益は254億円、経常利益は247億円となり、それぞれ過去最高となりました。当期から Peach・Aviation(株)を連結子会社としたことによる特別利益を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は510億円となりました。

単位:億円(増減率を除き、単位未満は切り捨て)

【連結経営成績】	平成30年3月期 第1四半期	平成29年3月期 第1四半期	増減	増減率(%)
売上高	4,517	4,044	472	11.7
営業費用	4,262	3,902	359	9.2
営業損益	254	141	113	80.0
営業外損益	▲6	▲34	28	—
経常損益	247	106	141	132.5
特別損益	355	1	354	—
親会社株主に帰属する 四半期純損益	510	66	444	668.4

単位:億円(単位未満は切り捨て)

【セグメント情報】	平成30年3月期 第1四半期		平成29年3月期 第1四半期		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
航空事業	3,968	231	3,508	126	459	105
航空関連事業	658	42	613	24	44	17
旅行事業	363	6	341	6	21	0
商社事業	335	9	344	10	▲8	▲0
その他	88	5	83	4	4	1

(2) 航空事業

①国内線旅客

- ビジネス需要やゴールデンウィーク期間の販売状況が堅調に推移したことに加え、需要に応じた各種割引運賃を設定したこと等により、旅客数・収入ともに前年同期を上回りました。
- 路線ネットワークでは、6月から中部＝宮古線を新規開設し、ネットワークの充実を図りました。また、需要に応じてきめ細かく機材の入れ替えを行う等、需給適合を図りました。
- 営業面では、様々な旅のシーンに応じた「旅割タイムセール」を定期的を実施し、需要喚起に努めました。

結果として、国内線旅客収入は 40 億円の増収(前年同期比 2.7%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国内線旅客】	平成 30 年 3 月期 第 1 四半期	平成 29 年 3 月期 第 1 四半期	増減	増減率(%)
旅客収入(億円)	1,546	1,505	40	2.7
旅客数(千人)	10,353	9,789	563	5.8
座席キロ(百万)	14,410	14,393	16	0.1
旅客キロ(百万)	9,296	8,792	503	5.7
利用率(%)	64.5	61.1	3.4	——

②国際線旅客

- 国際線旅客は、日本発ビジネスクラス需要が引き続き好調に推移していることに加え、前年同期においてテロの影響を受けていた日本発欧州線のプレジャー需要が回復したことや訪日需要を取り込んだこと等により、旅客数・収入ともに前年同期を上回りました。
- 路線ネットワークでは、羽田＝ホノルル線に続いて成田＝ホノルル線においても、一部の機材をボーイング 787-9 型機へ変更し、フルフラット・シートの「ANA ビジネス・スタグガード」と「プレミアム・エコノミー」を提供することで、プロダクトとサービスの充実を図るとともに、旺盛な需要の取り込みに努めました。
- 営業面では、ゴールデンウィーク期間においても、きめ細かく割引運賃を設定し、プレジャー需要の喚起に努めました。
- サービス面では、6月より国際線のファーストクラス・ビジネスクラスで提供するワイン・シャンパンのメニューを刷新した他、羽田空港の国際線 ANA LOUNGE において、お客様にお食事を直接サービスする「シェフサービス」を毎日実施する等、サービス向上に努めました。

結果として、国際線旅客収入は 161 億円の増収(前年同期比 13.1%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国際線旅客】	平成 30 年 3 月期 第 1 四半期	平成 29 年 3 月期 第 1 四半期	増減	増減率(%)
旅客収入(億円)	1,394	1,233	161	13.1
旅客数(千人)	2,246	2,131	115	5.4
座席キロ(百万)	15,759	14,612	1,146	7.8
旅客キロ(百万)	11,608	10,663	945	8.9
利用率(%)	73.7	73.0	0.7	——

③貨物

- 国内線貨物では、宅配貨物及び国際線との接続貨物が堅調に推移したものの、北海道発の生鮮貨物の取り扱いが減少したこと等により、輸送重量は前年同期を下回りましたが、運賃単価の改善を図ったことから、収入は前年同期を上回りました。
- 国際線貨物では、北米・欧州向けの自動車関連部品を中心とした旺盛な貨物需要により、日本発海外向けは好調に推移しました。海外発は、総じて需要は旺盛に推移し、中国・アジア発の日本向け貨物に加え、中国発北米向けの三国間輸送貨物を取り込んだ結果、輸送重量・収入ともに前年同期を上回りました。

結果として、国内貨物収入は微増(前年同期比 0.9%増)、国際貨物収入は 64 億円の増収(前年同期比 31.3%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【貨物】		平成 30 年3月期 第1四半期	平成 29 年3月期 第1四半期	増減	増減率(%)
国内線	貨物収入(億円)	72	71	0	0.9
	輸送重量(千トン)	101	103	▲2	▲1.9
	有償貨物トンキロ(百万)	104	105	▲0	▲0.6
国際線	貨物収入(億円)	268	204	64	31.3
	輸送重量(千トン)	243	221	22	10.2
	有償貨物トンキロ(百万)	1,098	980	117	12.0

④その他

- マイルージ付帯収入、バニラ・エア(株)の収入、Peach・Aviation(株)の収入、機内販売収入、整備受託収入等で構成される航空事業におけるその他の収入は 664 億円(前年同期 472 億円、前年同期比 40.7%増)となりました。
- バニラ・エア(株)では、ゴールデンウィークの高需要期に成田＝札幌線を増便すること等により需要を取り込んだ一方で、低需要期には減便する等、需給適合を図りながら収益性の向上に努めました。当第1四半期における輸送実績は、旅客数は 651 千人(前年同期比 45.9%増)、座席キロは 1,221 百万席キロ(同 34.0%増)、旅客キロは 1,035 百万人キロ(同 36.7%増)、利用率は 84.8%(前年同期差 1.7%増)となりました。
- Peach・Aviation(株)では、6月から関西＝上海(浦東)線を増便しました。また、機材を1機受領し 19 機体制としました。当第1四半期における輸送実績は、旅客数は 1,186 千人、座席キロは 1,611 百万席キロ、旅客キロは 1,382 百万人キロ、利用率は 85.8%となりました。

(3)航空関連事業・旅行事業・商社事業・その他

- 航空関連事業では、羽田空港、関西空港における旅客の搭乗受付や手荷物搭載等の空港地上支援業務の受託が増加したことや、外国航空会社から機内食製造の受託が増加したこと等により、売上高は 658 億円(前年同期比 7.3%増) 営業利益 42 億円(同 72.8%増)となりました。
- 旅行事業では、国内旅行は、ダイナミックパッケージ商品「旅作」のプロモーション強化により、取扱高が堅調に推移したことに加え、「ANA スカイホリデー」では、前期に発生した熊本地震の影響で減少した九州方面の取扱高が回復したこと等により、売上高は前年同期を上回りました。海外旅行は、「ANA ハローツアー」において、ハワイ方面の取扱高が好調に推移したこと等から、売上高は前年同期を上回りました。訪日旅行は、他社との競争激化により、台湾において取扱高が減少したこと等から、売上高は前年同期を下回りました。
これらの結果、売上高 363 億円(前年同期比 6.4%増) 営業利益6億円(同 13.1%増)となりました。
- 商社事業では、空港免税店「ANA DUTY FREE SHOP」や空港物販店「ANA FESTA」の売上高は前年同期を上回った一方で、食品部門において主力商品の取扱高がマーケットの競争激化により減少したこと等から、売上高は 335 億円(前年同期比 2.6%減) 営業利益9億円(同 8.2%減)となりました。
- その他では、建物・施設の保守管理事業や航空保安警備事業が堅調に推移したこと等により、売上高は、88 億円(前年同期比 5.3%増)、営業利益5億円(同 33.9%増)となりました。

(4) 連結財政状態

(自己資本比率、D/Eレシオを除き単位未満は切り捨て)

【連結財政状態】	平成 30 年3月期 第1四半期	平成 29 年3月期	増減
総資産(億円)	24,105	23,144	961
自己資本(億円) (注1)	9,545	9,191	353
自己資本比率(%)	39.6	39.7	▲0.1
有利子負債残高(億円) (注2)	7,493	7,298	194
D/Eレシオ(倍) (注3)	0.8	0.8	▲0.0

注1: 自己資本は純資産合計から非支配株主持分を控除しています。

注2: 有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3: D/Eレシオ=有利子負債残高÷自己資本

(5) 連結キャッシュ・フロー

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【連結キャッシュ・フローなど】	平成 30 年3月期 第1四半期	平成 29 年3月期 第1四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	956	395
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,204	▲388
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲72	194
現金および現金同等物期末残高	2,766	2,851
減価償却費	366	340

2. 平成 30 年3月期の見通し

- わが国経済の先行きについては、海外景気の下振れや欧州・中東におけるテロや紛争等、景気を下押しするリスクが懸念されるものの、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果等もあり、緩やかに回復していくことが期待されています。
- 平成 29 年4月 28 日に発表いたしましたとおり、ANAグループでは本年4月に策定した「2016～2020 年度 ANA グループ中期経営戦略(ローリング版 2017)」を着実に実行し、サービス品質を極め、グローバルな知名度向上をはかるとともに、コストマネジメントの徹底による強靱な経営体質と、攻めのスピード経営により、「世界のリーディングエアライングループ」としての地位を確立してまいります。
- グループの収益基盤であるフルサービスキャリア事業においては、国内線では需給適合の強化により収益性の堅持に努めつつ、国際線では首都圏デュアルハブモデルを進化させ、ネットワークをさらに拡充するとともに、海外におけるブランド力の向上と販売力の強化をはかってまいります。
- 貨物事業では引き続き、収益性の維持・向上に努めつつ、Peach Aviation(株)の連結子会社化や、ノンエア事業の収益性を高めることにより、ポラティリティ耐性を備えた最適な事業ポートフォリオの構築を目指します。

以上により、平成 30 年3月期の連結業績見通しの見直しは行いません。

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【平成 30 年3月期見通し(連結業績)】	予想	前期実績 (平成 29 年3月期)	増減
売 上 高	19,100	17,652	1,447
営 業 利 益	1,500	1,455	44
経 常 利 益	1,400	1,403	▲3
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,250	988	261